

2019年度 第3回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

2020年3月23日（月）10時30分より、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

（議事内容）

○場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80

○出席者 委員：18名 オブザーバー：13名 計31名（事務局：5名）

○報 告 (1) 秋田市中心市街地活性化基本計画（第4回変更案）に関する意見書の提出について
(2) 秋田市中心市街地活性化基本計画に関する事業の進捗
① 「あきた芸術劇場」および「秋田市文化創造交流館（仮称）」の進捗について
② 千秋公園周辺の活性化に向けた実証実験（キッチンカー出店）について
③ 秋田市中通 CCRC 拠点施設「クロッセ秋田」の整備について
④ ノーザンステーションゲート秋田の進捗について
⑤ 旧秋田魁新報社跡地への商業施設整備（秋田街屋）の進捗について
⑥ 秋田市民市場活性化事業（再形成事業）の進捗について

○協 議 (1) 2020年度事業計画（案）および収支予算（案）について

○情報提供 (1) 東北経済産業局からの施策紹介

（発言内容）

【三浦会長の開会挨拶】

本日は、年度末の大変ご多忙のところ、第3回協議会にご出席いただき誠にありがとうございます。

県内の公示地価が発表され、商業地に加え、住宅地も上昇に転ずるなど、中心部への需要回帰が鮮明となってまいりました。

官民挙げた活性化への取組が、地域をけん引する力となり、改めて皆様方のご支援・ご協力に感謝を申し上げます。

さて、第2期認定基本計画も3年が経過しようとしております。

「あきた芸術劇場」や「秋田市文化創造交流館（旧県立美術館）」の整備が進んでおり、次年度は開館に向けた機運醸成の県民参加事業なども計画されております。

先週の19日には駅ビル「トピコ」1階がリニューアルされ、4月1日にはABS秋田放送が新社屋からの放送開始を予定しております。先月、私も数々の工夫がなされた新社屋を見学させていただきました。

また、「旧ホテルハワイ駅前店」や「緑屋ビル」を県外資本が取得するなど、注目されるエリアとして開発の機運が一層高まって参りました。

一方、秋田商工会議所では、2021年度の東北DCに向け、千秋公園のお堀に咲くハスの花を活かした観光コンテンツの開発と新たな賑わいを創出するため、「秋田市ナイト観光検討委員会」を立ち上げ準備を進めております。

これは私の持論ですが、中心市街地には、これまでの成果や将来像などを踏まえた新たなランドデザインを描き、それを生かす必要があると思います。

例えば週末は広小路一体を歩行者天国とし、仮設店舗のマーケットを設けるなど、市民が日常の買い物だけでなく、非日常の市場を楽しむことが出来る新たな空間をすることで、新たな交流や商機が生まれる可能性があると思います。

次年度はそうした定期的な賑わいを形成していくための調査・研究を進めて参りたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

本日は、2020年度の事業計画および予算案へのご審議と、各事業の進捗状況をご報告いただき情報共有を図ってまいりますので、皆様からの忌憚のないご意見を賜りますようお願い申しあげ、開会のご挨拶といたします。どうぞよろしくお願いいたします。

【報 告】

(1)秋田市中心市街地活性化基本計画（第4回変更案）に関する意見書の提出について

秋田市都市整備部の千田都市総務課長が下記のとおり報告した。

第4回変更案の内容については、前回協議会で説明しているため、その後の内閣府協議の結果と現在の状況について報告する。

前回の協議会において承認いただいた変更案を、12月27日に内閣府に提出し、変更認定に向けた協議を行った。

協議の結果、内閣府から特段の指摘を受けることなく、変更内容は認められている。なお、事業名を修正することに関し、計画書の記載方法について一部指導があり、その点を修正した。

内閣府からの指導により修正した内容についてであるが、具体的には、資料の1「内閣府等との協議について」の下段に記載の例で示すように、変更前の計画書における「県・市連携文化施設」という記載をすべて「あきた芸術劇場」と改めている。

前回協議会で提示した変更案では、計画書第4章から第9章までに記載している事業一覧のみを変更していたが、内閣府より計画書全般にわたり事業名を修正するよう求められた事から、これに対応したものである。

内閣府との協議が整ったことから、令和2年2月6日付けで最終の変更案を秋田市中心市街地活性化協議会に提示し、変更案に対する意見聴取を依頼し、2月12日付けで、「変更案は妥当なものであると判断する」との回答をいただいている。

その後、内閣府の指定により、3月6日付けで内閣総理大臣に対し、変更認定申請書を提出したところである。

現在は、内閣府において変更認定に向けた手続きを進めており、順調に進めば3月末の変更認定となる予定と伺っている。

続いて、事務局より下記のとおり報告があった。

「秋田市中心市街地活性化基本計画（第4回変更案）は、妥当なものであると判断する」との意見書を2月12日付けで穂積市長宛てに提出した。

出席者より意見等は特になし。

(2)-①「あきた芸術劇場」および「秋田市文化創造館」の進捗について

秋田市企画財政部の齋藤副理事兼企画調整課長が下記のとおり報告した。

初めに「秋田芸術劇場」について説明する。

令和4年3月の開館に向けて、開館1年前イベント等の実施により利用促進に係る県民・市民の機運醸成を図るとともに、施設予約システムの構築やプロモーターへの誘致活動など、開館準備を行うこととしている。

「(1)開館に向けた機運醸成のための県民・市民参加事業」では、県内外に広く周知するため、県と連携し1年前PRイベントや仮囲いアートなど、県民・市民参加事業を実施する。

「(2)開館準備事業」では、現在、指定管理者の公募を3月27日まで行っているところであるが、指定管理者を6月議会で選定する予定としている。円滑な開館・施設運営に向け、指定管理者による運営体制の構築を図るほか、より県民・市民に親しまれる施設となるよう、公募により愛称を決定するとともに、重要な舞台備品を選定する。6月以降の動きとなるが、具体的には①HP開設、予約システムの構築、プロモーターへの誘致活動等の開館準備、②県・市で場を設け、ピアノ等舞台備品選定に係る文化団体等からの意見聴取の実施、③相性の公募および選定委員会の開催などを予定している。

「(3)指定管理者選定委員会開催経費」については、少額であるが継続分を予算計上したものである。

2月末の建設工事の進捗率は7.7%となっており、順調に進んでいる状況である。

次に、「秋田市文化創造館」について説明する。

昨年4月に県から譲り受けた旧県立美術館について、今議会で条例案が議決され、施設名称が「秋田市文化創造館」に決まり、活用していくこととなった。成長戦略の重点プログラム「芸術・文化によるまちおこし」のさらなる推進を図るため、「文化創造プロジェクト」に取り組む。

改修工事に入り、コンクリートの一部に施工不良が見つかったことから、開館時期が当初予定していた令和2年10月頃から遅れ、現在は令和2年11月30日に改修工事完了、令和3年3月下旬の開館を目指している。2月末の工事の進捗率は28.4%と、見直し後の進捗は順調に推移している。

次に、来年度のソフト事業の内容について説明する。

「旧県立美術館活用事業」の「(1)プレ事業実施業務委託」についてであるが、一般の文化施設と違い、内容が分かりづらいとの意見をいただいております。開館後どのような事業が行われるのか、「シンポジウム」や「ワークショップ」を通じて事業展開を市民に周知する事業である。

「(2)開館準備業務委託」については、6月議会で指定管理者の選定を予定しており、指定後、習熟訓練等の開館準備を指定管理者が行うこととなる。

「(3)指定管理料」は、開館後、施設の運営管理を指定管理者が行うための費用となる。

続いて、「文化創造プロジェクト推進経費」についてであるが、秋田市が芸術・文化によるまちおこしのさらなる推進を図るため、文化創造館の開館に合わせて「(1)リーディング事業」を実施したいと考えている。NPO法人アーツセンターあきたおよび秋田公立美術大学の教員と検討を進めている。詳細は改めて報告する。

最後に、今後のスケジュールについてであるが、本日より指定管理者を公募する。4月にプレ事業の実施業務を委託し、6月に指定管理者を議決により指定し、7月開館準備業務委託、11月改修工事完了、令和3年3月の開館を予定している。

(2)-②千秋公園周辺の活性化に向けた実証実験（キッチンカー出店）について

秋田市建設部の保坂公園課長が下記のとおり報告した。

法律の改正による「Park-PFI制度」によって、公民連携による都市公園の活性化が期待されているところであるが、秋田市としては、平成31年3月に民間活力導入に関する説明会を開催し、令和1年9月から11月の間、千秋公園におけるマーケットサウンディング調査を実施したところである。しかしながら、具体的な活用方法を見出すことが難しい状況であったため、今回、公園利用者の利便性や快適性を高める新たな公共サービスの創出を目指し、その取組の一つとして、千秋公園の市場性や事業課題等の把握を目的に、移動販売車（キッチンカー）による飲食店等の営業を行う社会実験を実施することとした。

千秋公園東側ポケットパークにて、5月1日から7月31日までの3カ月間行う。

実施内容についてであるが、出店数3台程度、販売品目は酒類を除く飲食物、営業時間は10時から16時までとする。利用者および出店者を対象にアンケート調査を実施する。

締め切りは3月27日までとなっており、現在4社から申し込みがきている状況である。

(2)-③秋田市中通 CCRC 拠点施設「クロッセ秋田」の整備について

㈱北都銀行地域創生部の赤坂副部長が下記のとおり報告した。

建設については、躯体工事が11階まで進み、全体の約55%の進捗状況となっている。計画どおりの進捗である。

10月5日のグランドオープンを目指しているが、新型コロナウイルスの影響により、中国製品の納品が遅れているため、遅れる可能性がある。

テナントの入居状況については、4階の24坪と10坪の2区画が空いている状況である。内装の設備投資が事業所負担であることが、入居への敷居を高めている要因である。

分譲マンションについては、購入者アンケート調査により、秋田版 CCRC マンションへの期待感、安心感、駅前の利便性が高く評価されおり、周辺の商店街、商業施設、医療機関等と連携しながら賑わいを創出していきたいと考えている。具体的な運営内容については「賑わい部会」および「スマートウェルネス部会」で検討を重ねているところである。

引き続き、関係機関の皆様と連携しながら事業を推進していきたいと考えている。

今後も進捗状況については随時報告させていただく。

(2)-④ノーザンステーションゲート秋田の進捗について

東日本旅客鉄道㈱秋田支社の田口地域活性化室長が下記のとおり報告した。

駅周辺の進捗状況を示した資料を配布した。

3月19日に秋田駅 駅ビルのトピコ1階がリニューアルオープンした。「ホリデーパーク」をデザインコンセプトにシームレスにつながる場所となるよう開放的なつくりとしている。内装には木材を使用し、1階から3階まで内装の統一化が図られた。

ホテルメトロポリタン秋田の増築計画については、3月10日に安全祈願祭を行い、工事に着手している。

ディークレスト秋田駅前（学生マンション）は、満室（80戸）になったと伺っている。

2015年9月の「地方創生に向けたコンパクトなまちづくりに関する連携協定」の締結を契機とした「ノーザンステーションゲート秋田」のハード整備については、順調に推移しているところであるが、中心市街地の賑わいにどう繋げていくかが課題と認識している。

引き続きの支援をお願いするとともに、進捗状況については適宜報告させていただく。

(2)-⑤旧秋田魁新報社跡地への商業施設整備（秋田街屋）の進捗について

まちづくりマネジメント(株)の高堂代表取締役が下記のとおり報告した。

令和2年度から建設に着手する予定であったが、準備不足のため令和3年度に繰り越す予定である。

現在、出店者募集しており複数の応募がきている状況である。応募や問合せがあった際は個別に対応している。コンセプトや資金調達方法など、検討課題の整理を着実に進めていくこととしている。

(2)-⑥秋田市民市場活性化事業（再形成事業）の進捗について

協秋田市民市場の竹内事務局長が下記のとおり報告した。

空き区画の解消と業種業態の見直しにより、秋田の職の玄関口として魅力ある施設整備を目的に、秋田市中心市街地活性化協議会の中心市街地商業活性化アドバイザー派遣事業を活用した。

年7回のアドバイザー派遣実施の中で、数値目標を意識した販促計画、実行、結果検証、WEBサイトおよびSNSの活用策等についてアドバイスいただいている。

顧客層拡大の上で必要な子育て世代をターゲットとした新規イベントの実施や、ターゲットに沿った宣伝媒体使用等により、これまで蓄積がなかった部分のデータ収集ができ、効果検証を行うことができた。

物販、飲食、幼児向け教室など、多様な業種の新規テナントが出店し、周辺環境の変化も著しいことから、これまでの概念にこだわらない販促企画、WEBおよびSNSによる情報発信を絡めた観光需要の受入れ体制について協議し、実行に繋げていきたいと考えている。

【出された意見・質問等】

秋田市広小路商店街振興組合の佐々木理事長より、千秋公園周辺の活性化に向けた実証実験（キッチンカー出店）について、「酒類を除いたり、営業時間を16時までにしたりと制約が多いと感じる。規制をもう少し緩和できないものか」との意見があった。

また、秋田市中心市街地活性化協議会の三浦会長より、「今回は実験ということであるが、継続実施を前提として、酒類の取扱いや営業時間の延長化について再検討いただきたい」との意見があったのに対し、秋田市建設部の保坂公園課長は「トイレや給排水設備がないため、現条件となった。課題や実験結果を検証し、検討を重ねていく」と答えた。

仲小路振興会の藤井会長より、「東横イン西口ホテルの進捗について、6月に着工し、令和3年10月の完成とのことであるが、他に追加情報はるか」との質問があったのに対し、秋田市

中心市街地活性化協議会の三浦会長が「東横イン西口ホテルについては、現時点で新聞以上の追加情報はなし」と答えた。

続けて、藤井会長より「仲小路振興会では、ABS 秋田放送の移転を受け、歓迎ポスターの制作を検討している」との情報提供があった。

【協 議】

(1)2020 年度事業計画（案）および収支予算（案）について

事業計画（案）・収支予算（案）について、事務局が説明した。

会議の開催については、協議会を年 3 回開催する計画となっている。第 1 回目の開催は、6 月 3 日（水）を予定している。

事業(1)の①、芸術文化ゾーン活用研究会については、ゾーンについての意識を共有し、周辺商店街・民間事業者と行政・文化施設との連携を図ることにより、ゾーンを有効活用した活力あるまちづくりの方策を研究し、その実施を支援することを目的に年 3 回の開催を計画している。

②秋田歩き愛です事業への協力および(2)秋田市ナイト観光検討委員会への協力については、詳細を別紙で資料を添付しており、後程詳しく説明させていただく。

次に、(3)広小路歩行者天国化調査・研究事業についてであるが、冒頭の挨拶において会長より発言があったとおり、あきた芸術劇場や秋田市文化創造交流館（仮称）の完成に併せ、「広小路歩行者天国化」のグランドデザインを調査・研究する事業を実施したい考えである。

(4)中心市街地商業活性化アドバイザー派遣事業の活用については、独立行政法人中小企業基盤整備機構の事業を活用して専門家を招聘するもので、派遣料が無料となる 5 日以内で有効に活用したいと考えている。

(5)アートなまち歩き発信事業については、各施設より好評であるアートなまち歩きの購入部数を増やし、継続発信するものである。

(6)情報発信事業については、研究会構成団体が実施する事業を周知するための PR 用パンフレットスタンドを「ぽぽろ〜ど」と「にぎわい交流館 AU」に継続設置するものである。

その他、(7)東北地域中活協議会等交流会への参加による支援体制や活動内容の情報収集に加え、(8)循環バス「ぐるる」車内広告および(9)あきたチャレンジマーケット、まちなカフェ等の利用促進に努めていく。

次に、事業(1)の②秋田歩き愛です事業への協力について、具体的な内容を説明させていただく。

市民に対する芸術文化ゾーンの更なる意識醸成を図るため、ウォークイベントを通じて研究会構成施設間の横の連携を促進するとともに、街の賑わい創出に寄与することを目的として、今年度初開催した事業である。

次年度については、10 月頃の実施を予定しており、現在はウォーキングを実施する NPO 法人等との連携による開催を模索している状況である。協議会として協力していきたいと考えている。

事業概要についてであるが、「秋田歩き愛です事業」と連携し、研究会構成施設に 10カ所程度のチェックポイントを設置するとともに、開催中の企画展や施設にまつわるクイズを出題し、各チェックポイントである施設を廻る企画となっている。

リーフレットには構成施設の企画内容や周辺飲食等の優待情報を掲載し、中心市街地を楽しみながら回遊していただく内容にする予定であり、当協議会からの支援として予算 20 万円を計上している。

次に、(2)秋田市ナイト観光検討委員会への協力について、具体的な内容を説明させていただく。

秋田市における都市型観光の魅力アップを図るため、ナイト観光を検討・実施することで、2021 年度に行われる東北ディスティネーションキャンペーンの新たな観光スポットを創出するとともに、市内の観光消費額の拡大に繋げることを目的に実施する事業である。

7月下旬～9月頃の実施を予定しており、秋田市ナイト観光検討委員会で主催し、秋田商工会議所が運営を主管する。

委員には、秋田県、秋田市、(一社)秋田県観光連盟、東日本旅客鉄道(株)秋田支社等々に参画いただいている。

蓮の花のライトアップについては、蓮の花を広小路歩道および中土橋からライトアップすることが決定している。併せて、Instagram のスポットになる撮影ゾーンを作り、画像による情報発信を行い、インパクトを高めていきたいと考えている。

ライトの設置は、広小路歩道の柵および中土橋の柵と街路灯を利用することとしており、蓮まつり期間中限定で 19 時から 22 時、竿燈まつり期間中のみ 23 時までライトアップを行う予定である。

また、広小路歩道の街路灯を活用し、一区間をロゴスポット（影絵）によるライトアップを行い、夜の散策ルートを創出し、周辺飲食店・川反の商店街へ誘導を図ることとしている。

次に、併せて実施する賑わい創出ソフト事業についてであるが、①既存イベント、②秋田市飲食店組合環同連合会、③中心市街地商店街、④秋田県旅館ホテル生活衛生同業組合との連携による取り組みを検討している。

情報発信・映像製作事業については、①秋田市広報・公式 YouTube との連携、②SNS(Twitter、Instagram) によるフォトコンテストの実施、③東北ディスティネーションキャンペーンに向けた PR 映像の製作を企画している。

予算については、ライトアップするハード整備費として 500 万円、賑わいを創出するソフト事業として当協議会からの予算 100 万円、情報発信・映像制作費として秋田商工会議所からの 30 万円を充当する計画としている。

賑わい創出ソフト事業（案）の詳細を次のページに記載している。

①既存イベントとの連携については、7月26日（日）に、エリアなかいちにぎわい広場で行われる「秋環連チャリティー 生ビール祭り」の開催時間を延長していただき、ライトアップ点灯式を実施する計画で調整を進めている。

その他、「なかいちまつり」や「ギュギュっとあきた週末イベントリレー」との連携として、夜間に開催される「あきた元気祭り」や「アキタバール街」イベントとのコラボ企画を検討している。

②秋田市飲食店組合環同連合会、③中心市街地商店街との連携による取り組みとしては、夜観光サービスの提供を考えている。蓮の花の画像（夜間ライトアップまたは朝開花時）と飲食メニューを撮影し、「#蓮まつり、#千秋公園、#店舗名」などの項目のハッシュタグを付けて、Twitter

またはInstagramで情報発信をした画像を見せると、割引サービスを受けられるような企画を検討している。

④秋田県旅館ホテル生活衛生同業組合との連携による取り組みについては、朝観光サービス提供として、例えば「宿泊施設で宿泊者限定の朝観光サービスを提供」や「蓮の花の画像（夜間ライトアップまたは朝開花時）を撮影し、「#蓮まつり、#千秋公園、#宿泊施設名」などの項目のハッシュタグを付けて、TwitterまたはInstagramで情報発信をした画像を見せると、サービスを受けられるような企画を検討している。

対象候補先として、「秋田市内の宿泊施設」および「観光案内人の会」との連携による千秋公園でのまち歩きイベント等を検討している。

その他として、中土橋キッチンカーによる出店販売を考えている。ライトアップ後の開催となるため、7月26日（日）以降の土日を使った賑わいイベントを想定している。

通行止めに伴う道路使用許可、「なかいち広場」および「さんかく広場」の利用も視野に入れており、まちづくり㈱と今後詳細を詰めていきたいと考えている。

次に、収支予算案についてであるが、収入の部では、負担金として秋田市と秋田商工会議所からそれぞれ100万円ずつ負担いただいている。雑収入と繰越金を併せ、収入の部の合計は292万688円となっている。

支出の部については、会議費として8万円、事業費として芸術文化ゾーン活用研究会開催費用5万円、秋田歩き愛です事業への負担金20万円、秋田市ナイト観光・賑わい創出ソフト事業に100万円、広小路歩行者天国化調査・研究事業に15万円、アートなまち歩き発信事業に15万円の4回で計60万円、東北地域中活協議会等交流会に1万円、中心市街地商業活性化アドバイザー派遣事業では無料派遣の範囲内で活用するため0円計上とし、事務費2万円、予備費810,688円を計上している。

参考資料として、今年度の決算見込みを付けさせていただいた。アートなまちあるき発信事業の増額予算計上については、パンフレットスタンドへの設置に伴う、購入部数の増加およびステーパー加工が必要となったことが理由である。

出席者より意見なく、原案どおり承認された。

【情報提供】

(1) 東北経済産業局からの施策紹介

東北経済産業局商業・流通サービス産業課 村田課長が資料に基づき国の施策を紹介した。

○インバウンド需要拡大推進事業

○新型コロナウイルス感染症関連施策

閉 会